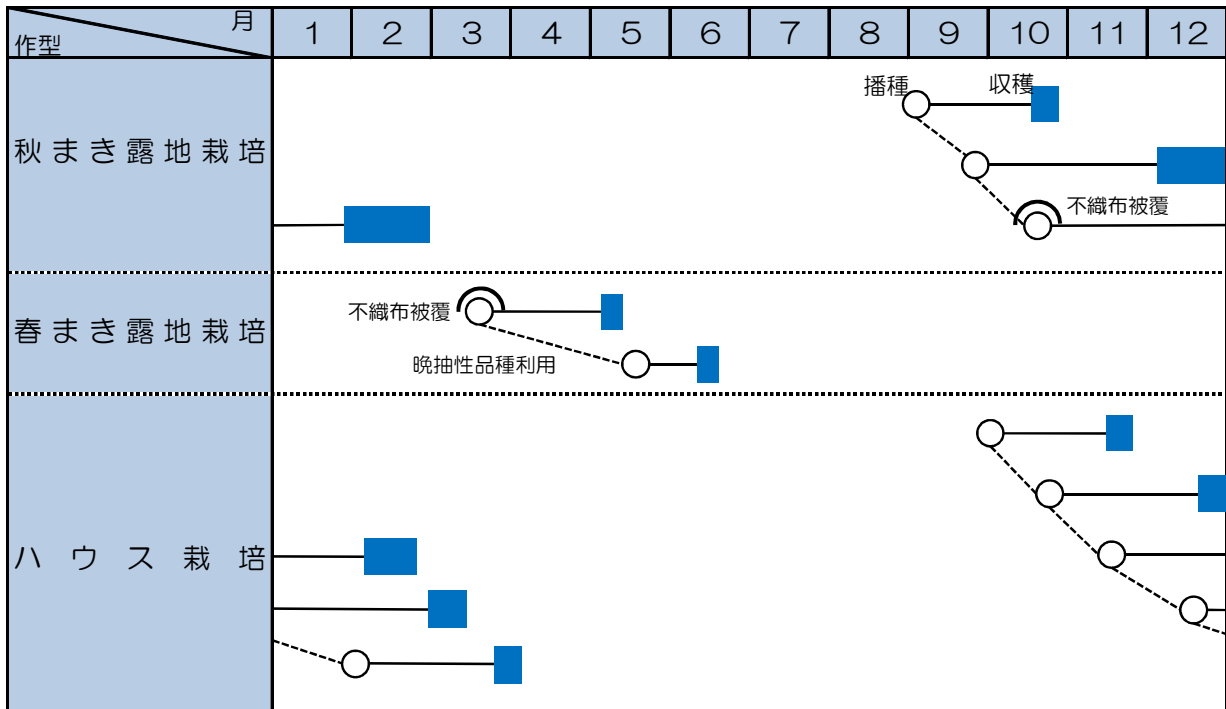


ホウレンソウ (アカザ科)

酸性土壌に弱いため、必ず多めに石灰を施して酸度を中和しておく。



1) 適地

土質は特に選びませんが、よく肥えた排水の良い土が最適です。野菜の中でも酸性土壌に最も弱いので、石灰で酸度を矯正しておく必要があります。スギナがたくさん生えるような畑は土壌が酸性化しているため、栽培には向きません。

2) 品種

露地・ハウスともに秋まきでは比較的生育の早い品種を使用します。露地の春まきでは晩抽性で生育の遅い品種を使用します。

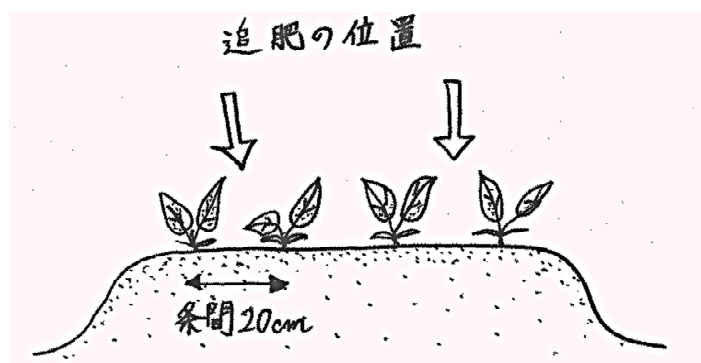
秋まき用：オーライ、アクティブ、パレード、アトラス など

春まき用：オーライ、アクティブ、おかめ、アクティオン など

3) 作り方

【圃場の準備】播種の1か月前に1m²当たり堆肥3kg、苦土石灰200g、BMようりん30gを施して耕耘します。その後、1m²当たり高度化成肥料80gを施し、幅140cmの畝を立てます。

【播種】播種は条間20cmの4条播きとします。鍬で切った溝に手で播種し、2cm程度覆土するか、播種機を使用します。播種後は十分灌



4条播きでの株間と追肥位置

水し、必要に応じて土壌処理除草剤を散布します。乾燥防止のため、畝表面に不織布やモミガラなどを薄く敷いておいてもいいでしょう。高温期では、不織布は発芽したら取り除きます。

【間引き】本葉1枚の頃3～4cm 間隔に、本葉3～4枚の頃再び間引いて7～8cm 間隔にします。残暑の厳しい時期には立枯病が出やすいので、時期をやや遅らせて間引きします。涼しい時期では遅れないよう早めに間引きします。播種機であらかじめ設定した株間に播種している場合は、間引きは不要です。

【追肥・灌水】ホウレンソウは短期間に生長しますので、肥切れしないように追肥を施用します。発芽後15日目頃に1m²当たり高度化成肥料20gを条間に施用して軽く中耕します。この時、肥料が葉にかからないように注意します。圃場が乾燥している場合は、散水チューブなどを利用し、時々灌水すると追肥の肥効を高めることができます。

【防寒対策】厳寒期の露地栽培では寒さや風、雪で葉が痛むのを防ぐため、不織布を畝の上面にベタがけして防寒します。

【収穫】草丈が20～25cmになったものから、順次収穫していきます。秋まきは収穫期間が比較的長いですが、春まきは一斉にトウ立ちしてくるので、茎が伸び出す頃には収穫が終わるよう、早めから収穫します。

4) 病虫害防除

ホウレンソウは比較的病虫害の発生は少ないですが、べと病やアブラムシ類、コナダ二類の被害が発生することがあります。べと病は、耐病性品種を使うことと、株間を広くして風通しをよくすることで発生を軽減できます。害虫には寒冷紗やベタがけ資材の防除効果が高いですが、完全には防げませんので、適宜防除します。



ハウス栽培の様子



不織布によるベタがけ



収穫調製作業



出荷の荷姿例